

(8)② 支援計画作成のポイント

ポイント1

指導や援助の在り方を、教職員の価値観や信念から考えるのではなく、児童生徒理解(=アセスメント)に基づいて考えます。

ポイント2

児童生徒の状態が変われば指導・援助方法も変わるため、あらゆる場面に適用する指導や援助の方法は存在しません。

ポイント3

どの段階で、どのような指導・援助が必要かという時間的視点をもって考えます。

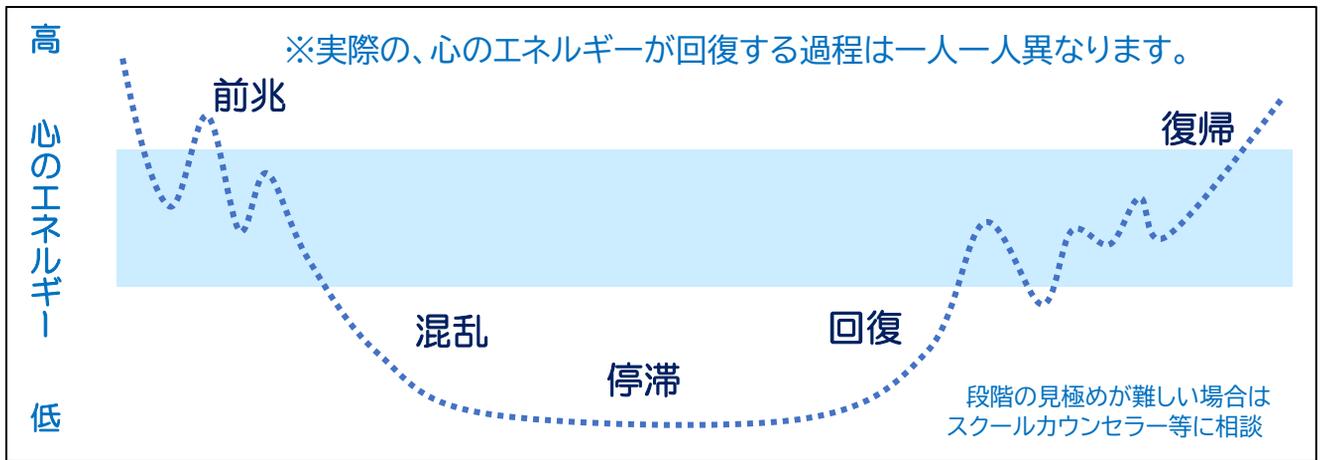
ポイント4

子供にとって最適な支援が届く計画になっていたのかを評価し、再度プランニングします。

心のエネルギーと段階に応じた支援

どのような支援が必要か判断するには、児童生徒の心のエネルギーについて理解することが大切です。次の曲線は、不登校児童生徒がたどる心のエネルギーの回復過程のイメージです。心の状態を見極め、その時々に応じた支援をします。

「不登校支援心のエネルギー曲線」佐賀県教育センター(2005)を参考に作成



前兆期	初期	中期	後期	復帰期
<ul style="list-style-type: none"> ○朝起きられなくなる ○休み時間に一人であることが多くなる ○宿題をしない ○忘れ物が多くなる ○保健室を頻繁に利用 ○身体症状を訴える <p>【支援内容(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆早期の家庭訪問 ◆別室での支援 ◆養護教諭の指導 ◆SCや相談員の活用 ◆家庭環境に要因⇒SSWの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○頭痛・腹痛・発熱等の身体症状が時々 ○食事・睡眠時間など生活の乱れが時々 ○物や人にあたる等の攻撃性が高まる ○感情や行動のコントロールができない ○恐怖心が強く、人目を避け外出をしない ○学校の話に拒否感 <p>【支援内容(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆休養を優先(無理に会わない) ◆保護者を支援 	<p><前半></p> <ul style="list-style-type: none"> ○部屋に閉じこもり外に出ない ○家の手伝いをしない ○昼夜逆転の生活をする <p>【支援内容(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆休養を優先(無理に会わない) ◆保護者を支援 <p><後半></p> <ul style="list-style-type: none"> ○気持ちの外に向き活動の意欲が出る ○趣味や遊びに関心がわく ○気持ちを言葉で表現する ○手伝いや家族への気遣い <p>【支援内容(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆教育支援センターと連携した支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分を肯定する言葉が出てくる ○進学や就職の話をするとき笑顔が出る ○学習を始める ○担任や友人など学校関係者に会う ○登校や進学・就職に向けて動き出す <p>【支援内容(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆教育支援センターでの学習 ◆オンライン学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活のリズムが整う ○相談室や別室への登校ができるようになる ○休日や夕方に友人と遊ぶようになる ○家族と良く話をするようになる ○好きな教科の学習に取り組むようになる <p>【支援内容(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆別室での支援 ◆学校行事への参加 ◆登校に向けた準備